

なぜPASは「UMNOにとって代わる」ことができなかつたのか？ — マレーシア・イスラーム党(PAS)の変遷

塩崎 悠輝 同志社大学

マレーシア・イスラーム党(PAS)は、今回の選挙で下院21議席、州議会は全部あわせて85議席とそれなりの議席数を得ていて、それなりに存在感のある政党です。しかし、PASの選挙およびその後の政治における重要性は議席の数にとどまらないものがあります。それにはいろいろな理由がありますので、それについてお話しします。

それと同時に、その背景にある「PASがどのような政党か、そもそもなぜこのような政党になったのか」を理解しておくことが今後のPASの役割や政治への影響を理解するうえで不可欠だと考えますので、その話もマレーシア社会、とくにマレー社会の変化とあわせてお話しします。

■ 「UMNOにとって代わる」ことをめざすも 「やや負けた」PASの2013年選挙

今回、2013年総選挙でPASが何をしたかったかと言いますと、「UMNOにとって代わりたかった」という一言に尽きます。「UMNOにとって代わる」ことがどのようなことかと言うと、半島部を中心に下院で第一党になることです。

サバ州とサラワク州では、はなから勝てると思っ
ていません。歴史上、サバ州、サラワク州でPASが議席を得たことはありません。下院でマレー人議員をもっとも多く擁する党、つまりマレー人の議員が一番多い党になることがPASの目標でした。

資料25は『ハラカ(Harakah)』というPASの機関紙です。「PAS SEDIA GANTI UMNO (PASはUMNOにとって代わる準備ができた)」とあります。この「PAS ganti UMNO (PASがUMNOにとって代わる)」という言葉は、2011年か2012年くらいからずっと使ってきていて、2013年になるとPRの他の野党が警戒することが多かったため最後のほうではあまり使わなくなり、他の野党と同じ「ini kali lahl (今回こそ)」を主に使っていましたが、戦略としてはまぎれもなく第一党になることが目標でした。ですが、今回の選挙では結果としてこれに失敗しています。



資料25 『ハラカ(harakah)』

現在のPASのなかは、微妙な雰囲気と言いますか、「やや負けた」という雰囲気です。大きいのはクダ州でもっていた州政権をなくしたことです。クダ州で議席が激減しました。クランタン州、ペラ州、連邦直轄区でもやや減りました。ところが、スランゴール州、トレンガヌ州では、ほとんど倍増しています。トレンガヌ州は州議会が8議席から14議席に増えています。一方で、攻勢をかけていたブルリス州、ヌグリ・スンビラン州、ジョホール州などでは議席を増やすことに失敗しています。

ですから、トータルで言えば少し議席を減らした、負けたことになります。前回2008年の選挙でPASは下院で23議席をとり、今回は21議席で若干減らしています。州議会では、トータルで言えば、前回は83議席だったのが今回は85議席なので若干増やしているのですが、クダ州で負けたことが大きいです。

スランゴール州の州議会選挙結果を見ると、2008年はPASが8議席だったのが、今回は15議席です。DAPとならんで第一党になっていますので、どうしてこれで首席大臣がPKRから出るのかという不満はPASのなかにもずいぶんありますが、スランゴール州では議席を増やしています。

■ もともと一枚岩ではなく UMNO支持とPAS支持に二分されるマレー人

中村正志さんの発表でもありましたが、今回の選挙は華人が多い選挙区はだいたいPRが勝っています。

ところが、マレー人が多い選挙区ではばらつきがあって同じではありません。マレー人が多いからといってBNが勝っているのではないという結果があります。その大きな理由として、マレー人の多い選挙区の一部でPASが勝っていることがあります。

どうしてマレー人が多い一部の選挙区でPASが勝っているか。それは一言で言えば、マレー人の支持をPASがUMNOと二分しているか、二分ではなくとも、少なくとも大きく分けているからです。これはマレー人が政治的には一枚岩ではないということです。ですから、マレー人だったらPRを支持するとか、マレー人だったらBNを支持するとか、そういうことはかならずしも言えません。

マレー人が二分されているがゆえに二大政党制が成り立ちうるとも言えます。マレー人がぜったいにBNを支持するのであれば、二大政党制がマレーシアで成り立つ余地はないと言えます。

■ 特定の地域だけに強く 都市部、農村部に限らず支持を受けるPAS

PASを支持しているマレー人がいるわけですが、どうしてマレー人の一部がPASを支持しているのかということが、現代のマレーシア政治の大きな背景としてあると思います。

PASがそもそもどのような政党であるかと言いますと、地域差は大きいのですが、主に半島部の北部に非常に強力な党組織を持つ政党であると言えます。党員100万人と言われる党組織があります。UMNOは党員が300万人と言っていますが、UMNOの党員の内実はかなりの部分が土建屋やUMNO関連企業の社員とその家族だったりするので、実働人数はPASのほうがおそらく多いです。一部の地域だけで強いというのは、現在だとクランタン州、トレンガヌ州、クダ州です。つまりマレー人が多い地域であっても、ジョホール州、ヌグリ・スンビラン州、ムラカ州、パハン州ではまったく強くないのです。

一部の地域だけで強いということは、特定の階級や職種だけで強いわけでも、あるいは都市部や農村だけで強いわけでもないということです。PAS研究の古典の一つにジェームズ・スコットの『ウェポンズ・オブ・ザ・ウィーク』(Scott, J (1985) *Weapons of the Weak*) という本があります。PASが農民層の中でもある程度豊かな農民の支持を得ていることに着目して、PASという政党の階級的側面に焦点を当てた研究ですが、PASの強さはそれだけでは説明できませ

ん。ある程度豊かな農民はジョホール州にもヌグリ・スンビラン州にもいます。でも、なぜかクランタン州、トレンガヌ州、クダ州だけで強いのがPASです。

■ PASの変遷① ——ポンドックに依拠するウラマーの党

PASがそもそもどのようにしてできたかと言いますと、二つの潮流があります。一つはUMNOが宗教者の支持を得ようとしてつくったPersatuan Alim-Ulama Se-Malaya(全マラヤ・ウラマー連盟)という組織があり、それがUMNOから分かれたものです。もう一つは、ムスリム党(Hizbul Muslimin)という組織が1948年にできました。3か月で非法化されたのですが、ペラ州のジャワ人を中心とするMadrasah al-Ehya as-Sharifという宗教学校があって、そのジャワ人の宗教者人脈がペラ州とスランゴール州の北部にあって、そこがムスリム党基盤でした。

これはPKMM(マラヤ・ムラユ民族党)と深い関係にあって、こちらのブルハヌディン・ヘルミ(Burhanuddin Helmy、後のPAS総裁)をはじめとしてジャワ人人脈がありました。これがPASの当初の組織だったのですが、党組織の中心は後にクランタン州とトレンガヌ州に移ります。

クランタン州とトレンガヌ州にポンドック(pondok、イスラームについて学ぶための共同体)というものがあります。クダ州にもあるのですが、1950年代なかごろに、クランタン州、トレンガヌ州、クダ州の北部3州のポンドックをPASが組織することに成功しました。これによってPASは1959年の総選挙で躍進します。これをしたのが、ムハンマド・アスリ・ムダ(Muhammad Asri Muda)という、後にPASの総裁になる人です。

ポンドックは、もっとも多いのが現在のタイ南部にあるパタニです。それとつながりのある北部のクランタン州、トレンガヌ州、クダ州でも多くあります。ポンドックは、そこに住んでいる人たちだけだとそれほど人数はいないのですが、地域的な影響力は北部3州で間違いに大きいです。これが長らく1950年代、1960年代、そして1970年代くらいまではPASの組織のもっとも重要なものでした。

一方でポンドックは、政府の政策によって、現代では実質は消滅するかたちを変えています。まず、1950年代に「民間宗教学校(sekolah agama rakyat)」に改変されて、ここ10年くらいでさらに「政府補助宗教学校(sekolah agama bantuan kerajaan)」に改変さ

れ、政府の教育行政に取り込まれてきました。

ポンドックがかたちを変えて公教育に取り込まれていくことで、PASの活動家たちであるイスラーム学者、つまりウラマー (ulama) たちは公務員化しています。まだPASを支持していますが、かつてポンドックが北部3州でもっていた地域的な影響力はなくなっています。

■ PASの変遷②

——ダワ運動と党組織の拡大、中東の影響

ポンドックがPASの支持基盤として選挙で勝てる力をなくしていったのが1960、1970年代ですが、一方で、別の部分からPASは組織を拡大します。それは1970年代にあったダワ (Dakwa) 運動とよばれるものがきっかけです。ABIMの出身者がダワ運動に関わり、アンワル・イブラヒムと一部はUMNOに入りましたが、他の人たちはPASに入ってきました。

ABIMが強かったのは、クダ州、ペラ州、スランゴール州です。ジョホール州で選出された下院議員でUMNOの大臣をしていたベテランの人と話していて、「あなたは1970年代にマラヤ大学のキャンパスにいたのに、なぜABIMに入らなかったのですか」と聞いたら、「自分はジョホール人だからABIMには入らない。ABIMはペラ人とかペナン人のものだから自分は入らない」と言っていました。

1960年代までにジョホール州、ムラカ州、パハン州のあたりはUMNOで固まっていた、一方で、クランタン州、トレンガヌ州、クダ州はかなりの部分がPASで固まっているという状況があったのですが、それに漏れてどちらにも入っていなかったマレー人にABIMに行った人が多かったのです。しかしABIM出身者は独自の政党を作ることはせず、UMNOとPASに分かれて入っていきました。

アンワルに連れて行かれたABIM出身者、あるいはABIMの周辺にいた人たちでペラ州出身の人たちが、現在の州務大臣のザムブリ・アブドゥル・カディル (Zambry Abdul Kadir) とか、もっと代表的なのはアフマド・ザヒド・ハミディ (Ahmad Zahid Hamidi) です。いま内務大臣をしている彼は、ジャワ系のポンドックをしていた家系で、彼のおじさんはPASの下院議員をしていましたが、彼自身はUMNOに入ってきたほうです。

ABIM出身者がPASに加入すると同時に、中東からの思想的影響が増大していきました。このあたりは時間がないので割愛しますが、今年5月に出る『東



資料26 ナシャルディン・マット・イサ

南アジア——歴史と文化』の第42号にこれについての私の論文が載っていますので、よろしかったらご参照ください。アブドゥル・ハディ・アワン (Abdul Hadi Awang) という現在のPASの総裁が、UMNOとその体制を「不信仰者の体制」と規定することが1981年になって、それでPASとUMNOの緊張が高まりました。

1985年にはムマリ (Memali) 事件がクダ州で起こりました。PASの現地活動家たちが治安部隊に襲われて15人が死亡して、UMNOとの対立が決定的になります。1970年代にはBNに加盟していたこともあるPASですが、以後は対立が決定的になって、なんとしてもUMNOを倒すという方針に転換します。そのためにはDAPと組むことも辞さないとなって、1990年の総選挙以降、PASとDAPの選挙協力が実現します。

■ UMNOとの連立を拒否し

第一党になるためにPRを選んだニック・アジズ

時代がとびますが、2008年総選挙で、そうした選挙協力によってPASはだいたい議席を伸ばしました。下院で23議席まで伸ばしましたが、その直後、ほんとうに選挙の翌日くらいから、UMNOとの間で連立交渉が始まりました。まず、スランゴール州、ペラ州、および他の州で連立を組むことが、アブドゥッラー・バダウィ (Abdullah Badawi) 首相とPAS指導部とのあいだで協議されました。それを主導していたのが当時の副総裁、ナシャルディン・マット・イサ (Nasharudin Mat Isa) です (資料26)。

主にクランタン系の指導部とトレンガヌ系の指導部が対立していました。クランタン州のPAS組織は単独で州政権をとれるので、UMNOと組む必要がないのです。でもトレンガヌ州のPAS組織は単独で州政権をとれず、UMNOと連立しないと州政権をとれないという事情がありました。他に思想的な相違もあるのですが、結局、PASの最高指導者であるニック・

アブドゥル・アジズ・ニック・マツト (Nik Abdul Aziz Nik Mat, ニック・アジズ) が主導権を握り、ナシャルディン他の数名をPASから追放して、PRにとどまるという決定をしました。

ニック・アジズは、PRの政策がすばらしいとか他民族と組みたいとかいうことではなく、どちらと組むのがPASの政権奪取にもっとも有効かという発想で、このような戦略をとりました。「マレー人がPR支持には来ないからPRにいても勝てないし、仮に勝てたとしても政権移行が順調にいくとは思えないからUMNOと組むべきだ」というのがナシャルディンの主張でした。ものが見えすぎるのが彼の不幸と言え不幸ですが、そのように対立したのです。ニック・アジズはPRのほうがPASが第一党になる可能性が高いという判断でPRと組みました。

■ PRに入って華人票を得ても それだけでは第一党になれない

PRに入ることは、PASに明らかにいくつかのアドバンテージをもたらしました。資料26は2009年のペラ州のブキ・ガントアン (Bukit Gantang) での補欠選挙のようすです。これは立候補の届け出の日で、「トッ・グル(先生様、ここではニック・アジズのこと)万歳！」と叫びながらPASの党旗を振りまわす華人の隊列が現れたのでなにごとかと思ったら、DAP 党員でした。

リム・グアンエン (Lim Guan Eng) 以下のDAP指導部が1,000人くらいを連れてPASの候補の応援に来ていて、PAS支持者も拍手をしています。華人が応援してくれたらPASもうれしいですね。映っている人物がリム・グアンエンです。

ただし、華人票の取り込みには限界があって、PASの得票率は1999年以来、だいたい変わっておらず、いつも15%弱です。いつも15%弱の得票ですが、議席は7議席から27議席まで大きく変わっています。これが小選挙区制のなせるわざで、ほんのわずかな差で7議席になったり27議席になったりする。このほんのわずかな差をどのようにして作るのかが問題で、一つにはDAPを通して華人票を得ることです。これによって2008年の23議席が達成されましたが、これだけでは第一党にはなりません。

■ 公務員と政府系企業関係者の票をねらい 前回よりも差は縮めるも敗北

第一党になるにはUMNOの支持基盤をとらなければいけません。UMNOの支持基盤とはマレー人票ですが、マレー人のなかでもとりわけ難しいのが公務

員やGLCsとよばれる政府系企業です。これには国軍や警察も含まれますが、大きいのはフェルダ (Felda, 連邦土地開発庁) の傘下にある農園の農民です。フェルダは軍とならぶナジブ首相の最大の支持基盤で、これをどのようにして奪うかが、PASがUMNOにとって代わるうえでの課題です。

あるUMNOの議員と話していたら、「UMNOはぜったいPASに負けない。なぜなら公務員100万人がいるから」と言っていました。100万人は控えめな言い方で、フェルダや政府系企業を入れるともっといます。そのUMNOの議員は「UMNOとPASの関係は食うか食われるかではない。組むか組まないかだ」と言っていて、「公務員がいるかぎりUMNOはPASに食われない」という意見でした。

インターネットを見ているとUMNOはひたすら嫌われているように見えますが、今なおUMNOには第一党となるのに十分な支持者がいて、その支持は——プロパガンダや農民の無知などではなく——何よりも社会経済的な分配によって維持されていることは明らかです。分配の第一の受益者は、公務員と政府系企業の関係者です。

PASは公務員の有権者をとりにいきましたが、その代表的な例が連邦直轄区のプトラジャヤ選挙区です。ほとんどの有権者がマレー人で、公務員とその家族という選挙区です。ここにPASは副総裁補のフサム・ムサ (Husam Musa) を候補に立て、総力をあげた選挙戦を戦いました。PAS幹部をずいぶん送り込んで、ニック・アジズ本人も応援に駆けつけました。

ですが、結果は負けました。前回の2008年にUMNOとPASの間で3倍くらいあった差が2倍強くらいに縮まっていますが、負けです(資料27)。PASは今回、フェルダにしきりとちょっかいを出したり、公務員を取り込もうとしたり、軍の退役した将官や佐官を候補者として擁立することをずいぶんしましたが、結局は公務員票を取れませんでした。

プトラジャヤ選挙区は、都市部であっても有権者の大多数がマレー人で、しかも公務員である場合、

資料27 Putrajaya での選挙結果

2008	
Tengku Adnan Tengku Mansor (BN)	4,038
Mohamad Noor Mohamad (PAS)	1,304
2013	
Tengku Adnan Tengku Mansor (BN)	9,943
Husam Musa (PAS)	4,402

PASはまず勝てないことを示す好例になりました。華人票が少なくマレー人が大多数の都市部選挙区でPASが勝つことができるのは、強力な党組織を持つクランタン州とトレンガヌ州だけです。

■ UMNOが社会経済的分配で確保する支持層を切り崩せなかったがゆえの選挙結果

なぜなのかいまいちわからないところもありますが、スランゴール州やトレンガヌ州ではPASは勝っていますし、クランタン州でも、議席を減らしたけれども、3分の2の州議会議席はとっています。クダ州は大敗と言っていい負け方をしましたが、これは州政権運営の評価があったと思われます。これを主導したニック・アジズとその側近である副総裁補のフサム・ムサらはいま勢力が退潮しています。

DAPはMCAとかGerakanとかSUPPにとって代わることに成功したと思われませんが、PASはおよそUMNOにとって代わることが成功したとは言えません。なぜ成功しなかったかと言うと、マレー人が動かなかった、とくに公務員が動かなかったからです。

「二民族制 (two-race system)」という単語を選挙直後にMCAの総裁のチュア・ソイレックが言っています。二民族制というのは、マレー人が与党支持、華人が野党支持で固定し、与野党の対立が二大民族の対立というかたちをとるという状態を意味するようです。それが今後の政治に妥当するかどうかはおいて、これは今後の政治のキーワードではないかと思います。「two race system」あるいは「two racial system」です。

BNはマレー人が支持してPRは華人が支持するという条件だと、当然PRにいるPASは第一党になれず、UMNOにとって代われないと予想されます。マレーシアの第一党というのはマレー人の議員を最も多く擁する政党のことで、PASは自分たちだけがUMNOに代わりうる政党だと自任しています。二民族制だとしたら、ニック・アジズらをはじめとするPAS指導者のPASがUMNOにとって代わって第一党になるという目論見はとうてい成功しえないことが見えてきて、PASは内部で少し揉めているところです。

繰り返しになりますが、マレーシアで二大政党制が成立するには、マレー人の票が割れている必要があります。マレー人の票が一方に集中すれば——それは、UMNOとPASが合同している状態でしか実現しません——そこが一党優位となります。今回の総選挙でPASが目標としたのは、PASが候補を立てた選挙区で、華人とインド人の過半数から支持を得つつ、

マレー人からの得票を増やすことで、マレー人議員を最も多く擁する第一党となることでした。選挙結果からPASが認識したのは、UMNOが社会経済的分配によって確保している支持層を削る切り札をPASが示せなかったということでした。